

調査用語を5つの辞書データベースを用いて検索した際に、意味の記載がない場合は用語をさらに分解し、再度検索した。また、記載内容が用語の同義語・類似語への単純な読み替えの記述のみであった場合は、さらにその意味について調査した。インターネットでの検索は2008年7月8日現在のものである。説明文の採択は、医学大辞典、看護学学習辞典、広辞苑・日本語大辞典の順とし、ヘルスケアサイトは補完的に使用した。

採択された辞書からの説明文をもとに平易な表現による用語集を作成し、これらについて専門家（医師1名、薬剤師2名、大学教員1名、製薬企業消費者対応窓口担当者1名）により精査を受けた。なお、説明文はあまり長文にならないよう15文字以内を目標に作成した。

## 2. 平易な表現とカッコ付き用語の理解度調査

### 1) 調査対象

18歳以上の男女とし、その他は問わない。

### 2) 対象用語

全調査用語258用語のうち、平成19年度調査<sup>1)</sup>において理解度60%以下の用語を理解度調査の対象とした。なお、信頼性のある平易な表現の説明文を作成できなかった用語（7用語）は除外した。

以上の条件を満たすオリジナル用語（以下、カッコなし用語）は128用語であり、これに対応するカッコ付きで平易な説明を加えた用語128用語、またカッコ内の平易な説明が1単語であるもの20用語（以下、カッコ内用語）をカッコから取り出してオリジナル用語に加え、全276用語について調査した。

### 3) 調査方法

自記式アンケートとし、調査項目は、問1. カッコなし用語（オリジナル用語）+カッコ内用語の理解度（合計148用語）、問2. カッコ付き用語の理解度（合計128用語）、問3. 対象者の背景情報について回答を得た。調査用紙をAppendix 3に示す。

### 4) 解析方法

対象者個人別に意味が分かると回答した用語の割合を「個人の理解度」とし、各用語ごとに意味が分かると回答した者の割合を「各用語の理解度」として評価した。

<個人の理解度、各用語の理解度の算出式>

$$\text{個人の理解度 (\%)} = \frac{\text{分かると回答した用語の数}}{\text{全用語数}} \times 100$$

$$\text{各用語の理解度 (\%)} = \frac{\text{分かると回答した者の数}}{\text{全回答者数}} \times 100$$

カッコなし用語とカッコ付き用語、カッコなし用語とカッコ内用語の個人の理解度の比

較については wilcoxon の符号付き順位検定、用語の理解度については  $\chi^2$  を行った。また、個人の理解度と「年齢」については pearson の相関係数を算出した。

これらの統計解析は SPSS for windows 14.0J を用いて解析し、有意水準は 5% とした。

## 結果

### 1. 平易な表現による説明文の作成

200 用語のうち説明文が検索された用語は 175 用語であった。残りの 25 用語については用語を分解して検索し意味づけを行った。その結果、最終的に説明文が得られなかった用語は 9 用語となった。これらについて用語別に、昨年度の理解度調査の結果、5 つの辞書の記載状況、発現年齢、原因、部位、症状、説明文を記載し Appendix 1 に示す。

なお、今回の検索で効能効果として記述されている用語のうち、自己治療が適切でないと考えられる用語が 9 用語存在した (表 3)。これらは、外用鎮痛・消炎薬、漢方薬・生薬製剤に存在した。

そして

表 3 自己治療が適切でないと考えられる用語

用語	製品数	薬効群
リウマチ	7	外用鎮痛・消炎薬
ロイマチス	1	
薬物性皮膚炎	1	皮膚用薬
嗜眠	1	女性用保健薬
くすりまけ	1	ビタミン・カルシウム製剤(ドリンク剤を含む)
関節リウマチ	4	漢方薬・生薬製剤
腎臓病	1	
ネフローゼ	1	
肺結核	1	

Appendix 1 を基に専門家に精査を受け、整理した最終版用語集を Appendix 2 に示す。

## 2. 平易な表現とカッコ付き用語の理解度調査

### 1) 調査対象者背景

アンケート調査により、18 歳から 83 歳までの男女 (平均年齢 46.1 歳)、合計 106 名から回答が得られた (回収率 100%)。調査対象者の属性を表 4 に示す。男女比はほぼ同数で、年代分布も 40 代男性がやや少ないものの大きな偏りはなかった。

一般用医薬品の購入または使用経験は 98% の人が「ある」と回答し、薬効群では目薬、かぜ薬、貼り薬、栄養ドリンク剤が多かった (図 1)。

### 2) 個人の理解度

カッコなし用語、カッコ付き用語のそれぞれの個人の理解度 (平均±標準偏差) は 30.7

±23.5%、82.7±25.3%で、カッコ付き用語の理解度はカッコなし用語に比べて約 50%高く、統計学的に有意であった。(P<0.0001)

表 4 調査対象者の属性

属性		人数	
性別	男性	50	
	女性	56	
年齢	18～20代	男性	8
		女性	10
	30代	男性	12
		女性	10
	40代	男性	6
		女性	10
	50代	男性	12
		女性	16
60代以上	男性	12	
	女性	10	
職業	会社員・公務員	48	
	自営業	2	
	医療従事者	10	
	主婦	22	
	学生	10	
	無職	8	
	その他	6	
最終学歴	中学卒	0	
	高校卒	18	
	専門学校・短大卒	20	
	大学・大学院卒	62	
	その他	6	
家庭内の医療従事者	あり	36	
	なし	70	
既往歴・現病歴	あり	68	
	なし	38	
健康への関心	あり	74	
	少しあり	32	
	なし	0	
OTCの購入または使用経験	あり	104	
	なし	2	

回答なし1名を除く

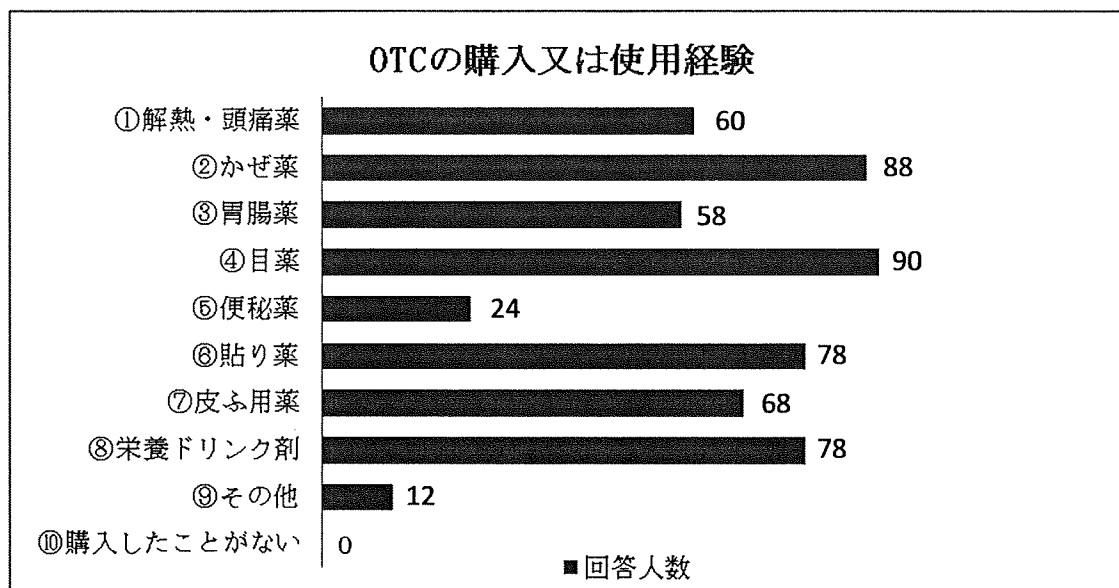


図1. OTC薬の薬効群別の使用経験者数

調査対象者の属性別の個人の理解度を表5に示す。カッコなし用語の理解度（平均±標準偏差）は、年齢では18～20代が最も低く13.6±21.9%、60歳以上が48.1±27.1%と最も高かった。職業別に比較すると、学生が10.8±17.3%と最も低く、医療従事者が63.4±27.1%で最も高かった。一方、カッコ付き用語になると、属性による理解度に大きな差は見られなかった。

### 3) 各用語の理解度

全調査用語の理解度をAppendix3に示す。

カッコなし用語、カッコ付き用語のそれぞれの用語の理解度（平均±標準偏差）は、30.7±17.2%、82.5±8.2%であり、カッコ付き用語にすることで理解度はカッコなし用語に比べ50%高く統計学的に有意に向上した（ $P<0.0001$ ）。なお、カッコなし用語に対しカッコの付随を行うことによって、すべての用語の理解度が60%以上に達した。

### 4) カッコ内用語とカッコ付き用語の理解度

カッコ内用語20用語とそれに対応するカッコ付き用語の理解度の比較を行ったところ（表6）、カッコ内用語の理解度の平均±標準偏差は90.2±8.5%と、カッコ付き用語の82.5±8.2%に比べ高い傾向にあったが、統計学的に有意ではなかった。理解度が完全に一致した用語は2用語、カッコ内用語に比べ、カッコ付き用語で理解度が向上した用語は8用語であり、理解度が低下した用語は12用語であった。

表5 調査対象者の属性と理解度

項目	回答	理解度(%)	
		カッコなし用語	カッコ付き用語
性別	男性	25.1±23.1	81.7±29.7
	女性	36.0±23.6	84.0±21.6
年齢	18～20代	13.6±21.9	73.1±32.2
	30代	26.1±21.9	72.5±35.6
	40代	22.6±15.6	87.5±17.8
	50代	39.5±21.1	92.9±8.8
	60代以上	48.1±27.1	85.8±23.8
職業	会社員・公務員	21.7±17.5	82.8±27.4
	自営業	37.0	89.0
	医療従事者	63.4±27.1	95.5±7.2
	主婦	38.5±16.0	85.6±17.8
	学生	10.8±17.3	61.7±36.8
	無職	46.4±29.2	75.2±28.3
	その他	20.4±6.7	99.6±0.5
最終学歴※	中学卒	-	-
	高校卒	37.6±29.1	72.1±35.9
	専門学校・短大卒	17.0±13.8	77.9±31.7
	大学・大学院卒	33.4±23.2	88.6±17.1
	その他	13.8±17.2	53.9±31.7
家庭内の医療従事者	あり	36.6±28.9	80.4±27.3
	なし	27.6±19.9	83.8±24.5
既往歴・現病歴	あり	32.9±25.4	83.9±22.6
	なし	26.7±19.45	80.4±30.1
健康への関心	あり	33.4±25.4	87.7±20.1
	少しあり	24.4±17.3	71.8±32.7
	なし	-	-
OTC の購入または使用経験	あり	29.4±21.7	82.3±25.4
	なし	97.6	100.0

※回答なしの1名を除外

表6 カッコ内用語とカッコ付き用語の理解度の比較

カッコ内用語	カッコ付き用語	カッコ内 用語	カッコ付き 用語
		%	%
気管支炎	気管支カタル（気管支炎）	86.8	88.7
たん	痰（たん）	94.3	100.0
せき	咳嗽（せき）	98.1	98.1
鼻炎	鼻カタル（鼻炎）	96.2	88.7
げっぷ	おくび（げっぷ）	100.0	86.8
	呑酸（げっぷ）	100.0	94.3
リウマチ	ロイマチス（リウマチ）	79.2	81.1
すりきず	擦過傷（すりきず）	96.2	98.1
にきび	尋常性瘰癧（にきび）	96.2	83.0
きず	創傷（きず）	88.7	98.1
日やけ	日光皮膚炎（日やけ）	94.3	92.5
とびひ	膿痂疹（とびひ）	71.7	75.5
はれ	腫脹（はれ）	83.0	88.7
歯肉炎	歯齦炎（歯肉炎）	92.5	88.7
ひきつけ	驚風（ひきつけ）	79.2	69.8
おりもの	こしけ（おりもの）	79.2	77.4
	帯下（おりもの）	79.2	83.0
胃腸炎	胃腸カタル（胃腸炎）	96.2	88.7
肥満症	肥胖症（肥満症）	84.9	84.9
下痢	醗酵性下痢（下痢）	100.0	83.0
鼻づまり	鼻閉（鼻づまり）	98.1	94.3
ぼうこう炎	膀胱カタル（ぼうこう炎）	90.6	86.8

## 考察

今回の調査用語 200 用語のうち辞書データベースから説明文が検索された用語は 175 用語であり、さらに分解して意味づけを行った結果、16 用語で説明文が追加され、最終的に辞書データベースから意味づけが行えなかった用語は 9 用語となった。このように 5～10% 程度の用語は、生活者が様々な辞書を調べても用語を正しく理解するための情報が得られない状況にある。このようなことは一般用医薬品の適正使用を推進する上で早急に解決すべき事項と考える。

今回、われわれが説明文を作成できた用語のうち、平成 19 年度の研究でカッコなし用語

の理解度が 60%以下のものについて、カッコなし用語とカッコ付き用語の理解度を比較した結果、カッコ付き用語の方がカッコなし用語に比べて平均 50%以上改善しており、カッコ付き用語とすることが理解度の向上に有用であることが強く示唆された。一方、カッコ付き用語とカッコから取り出したカッコ内用語の理解度の比較において、若干の不一致が見られた。しかし、その違いはわずかであり、統計学的にも有意ではなかった。このことから、効能効果用語が短い 1 単語で置き換えられる場合には、カッコ付きの説明を追記せず 1 単語で置き換えることも不可能ではないと考えられた。

カッコなし用語の理解度は年齢の増加に伴って高くなり、カッコ付きになると年代による顕著な差はなくなった。多くの一般用医薬品の効能効果が承認基準を基にしているため、年齢が進むことで病気の経験が多くなることと併せて古い言葉が継続して使用されていることが影響しているものと推測される。医療用医薬品の効能効果は診断法の進歩や診断名の変更に伴って変わることがあるのに対して、一般用医薬品では医療の進歩の反映が難しい状況にあるとも考えられる。今後は、こうした視点での用語の見直しも必要となろう。

一般用医薬品の効能効果の情報は、生活者がセルフメディケーションを自己決定するための重要な手段の一つである。しかし、今回の研究結果から、一般用医薬品の「効能又は効果」には不適當であると考えられる用語がいくつか見受けられた。「リウマチ」「ロイマチス」「関節リウマチ」が 1 例である。「日本では、手足の痛む病気を一般にリウマチ・神経痛といいならわしてきた。」と言われている<sup>7)</sup>。このことから、理解していると回答した生活者の中には、「リウマチ」を単に手足の痛む病気ととらえている人が含まれている可能性がある。医学的にはリウマチと神経痛は全く別の病気で、学問的には「リウマチ性疾患」と呼ばれており、この中には、俗にいう「リウマチ」(正しくは「関節リウマチ」)、「脊椎関節症」、「血管炎」および「関連疾患」などが含まれている。このように「リウマチ」は俗語としての意味と学問的な意味の 2 つの側面をもった用語である。今回の調査で、「リウマチ」「ロイマチス」「関節リウマチ」の記載は、外用鎮痛・消炎薬および漢方薬・生薬製剤の 2 つの薬効群に存在した。これらの効能効果用語にはリウマチの何に対して使用するかの具体的な説明はなく、疾病そのものの治療薬と生活者が受け取る可能性も否定できない。このような誤解を発生させないことは避けなければならないことである。

また、「薬物性皮膚炎」「くすりまけ」という効能効果は、薬の使用に起因すると考えられる副作用の治療を目的とすると考えられる。これらの症状は一般用医薬品によるセルフメディケーションの対象とはすべきでなく、医療機関の受診勧奨の対象と考えるべきものであり、このような効能効果については見直しをしていく必要もあろう。さらに、漢方製剤には、「嗜眠」「腎臓病」「ネフローゼ」「肺結核」もセルフメディケーションの対象としては不適であろう。

一般用医薬品の添付文書では、効能効果用語以外の項目の記述についても、生活者に理解されにくい表現が存在する。今後はそれらについても理解されやすい記述にする研究が必要と考える。



## 引用文献

- 1) 平成 19 年度厚生労働科学研究補助金事業報告書（主任研究者：古澤康秀）
- 2) 広辞苑 第五版 岩波書店
- 3) 日本語大辞典 第二版 1995
- 4) 看護学学習事典 第二版 2002
- 5) 医学大辞典 南山堂 18版 1998
- 6) Yahoo!ヘルスケア 家庭の医学  
(<http://health.yahoo.co.jp/katei/index.html>)
- 7) 橋本 明 関節リウマチQ&A

## 参考文献

- ・厚生省医薬安全局薬事行政研究会 改正薬事法の逐条解説－医薬品の安全性確保を目指して－ 1998 中央法規出版株式会社
- ・一般用医薬品 添付文書記載要領ガイドブック 2003 一般用医薬品安全対策研究会 薬事日報社
- ・カラー図解 よくわかる改正薬事法 改訂版 2007 新薬事法研究会 薬事日報社
- ・日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 添付文書の用語と解説
- ・コーパスによる難解語・重要語の抽出 －医療用語を例に－  
田中牧郎 金愛蘭 桐生りか 近藤明日子 国立国語研究所
- ・「一般向け専門用語」抽出の試み －医療用語を例に－  
田中牧郎 金愛蘭 桐生りか 近藤明日子 国立国語研究所

説明文の作成

Appendix 1

解熱鎮痛薬	理解度 (%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(症状(どうなるか))	説明文
咽喉痛	84.1							大きな音	のど	痛む	のどの痛み。
音響外傷性難聴	27.3								耳	音の聞こえの低下	大きな音の衝撃によって耳の聞こえが悪くなること。
外傷痛	67.1							外からの力	身体組織	損傷	外からの力により体に受けた傷の痛み。
骨折痛	85.5							外からの力により骨組織の連続性が断たれる(骨折)	骨組織	痛む	骨折の痛み。
耳痛	76.6	●							耳	痛む	耳の痛み。
神経痛	92.8	●	●		●				神経の走行に沿って	疼痛発作	体の神経にそってずきずきとずきずきのような痛みが起る。
疼痛	51.9	●	●	●	●	●				ずきずきと痛む	ずきずきと痛む。
ねんざ痛	96.1							外力が加わって	関節包、靭帯	軽度の損傷	手や足の関節をくじいた時の痛み。
歯の根の痛み	74.4								歯の根	痛み	歯の根本が痛むこと。

かぜ薬	理解度 (%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
悪心	26	●	●	●	●			嘔吐に前駆して	咽頭や心窩部	不快感を感じる。	気持ちが悪くはきけを感じる。むかつかぜ。
感冒緩和	69.6 64.9	●	●	●	●				激しい状態	やわらぐこと	やわらぐこと。
気管支カタル	19.5				●				気管支の粘膜	滲出性炎症。粘膜が炎症して破壊を伴わない。	気管支の粘膜が炎症して粘液の分泌が高まっている状態。
頭重	48.1				●				頭	重たい感じ。	頭が重たく感じる。
痰	54.5		●	●	●						気管から出る。ねばっこい分泌物。

鎮咳去痰薬	理解度 (%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
咽頭がはれて痛む	71								咽頭(のど)	はれて痛む。	のどがはれていたむ。
咽頭痛	62.3	●							咽頭(のど)	痛み	のどの痛み。
咳嗽	17.4	●	●	●	●	●			扁桃上部結合組織	炎症が及んだ場合	せき 口とのどの間のリンパ管のはれ。痛み。
扁桃周囲炎	59.4	●									ききめのあること
有効	71			●	●			肺結核・肺炎	胸膜	炎症がおこり、側胸部や背に疼痛を起す。	肺結核・肺炎が原因で胸膜の炎症がおこり胸や背中に痛みがおこる。
肋膜炎	40.6			●	●						

耳鼻科用薬	理解度 (%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
臭鼻症	34.8							感染などによって	主に副鼻腔	膿がたまると。頭痛。鼻づまり。	感染などによって鼻や、顔筋にうみがたまること。一般的には鼻の場合を言い、鼻づまり・頭痛が起ること。
蓄膿症	77.2		●	●	●	●					
鼻汁過多	68.1										鼻水が多く出ること。
副鼻腔炎	37.7	●	●	●	●				副鼻腔	頭痛。鼻づまり。慢性と急性がある。	鼻の中の粘膜や骨の炎症、はれ。鼻づまり・頭痛がおこる。
鼻カタル	27.5								鼻	滲出性炎症。粘膜組織の破壊を伴わない。	鼻の粘膜が炎症して粘液の分泌が高まっている状態。
胃腸薬	理解度 (%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
胃アトニー	7.6	●	●		●				胃	胃運動の低下。慢性胃炎の所見が見られる。	胃の運動が極めて低下した状態。多くの場合胃下垂がおこる。
胃重	51.9										胃が重いこ

胃酸過多	87																		胃酸が多く出過ぎること。
胃弱	87.3																		胃の働きが弱まっている状態。
胃部不快感	60.8																		胃のあたりが気持ち悪いこと。
胃部膨満感	51.9																		胃がはって気持ち悪いこと。
嘔吐	98.7																		膨れること。
おくび	19																		強制的に排出すること。
くだり腹	65.2																		胃の内容物を排出されること。
さしこみ	48.1																		胃にたまったガス
癩	19																		下痢をしていること。
消化促進	88.6																		胃や腹に急におこる痛み
整腸	80.5																		さしこみ。胃や腹に急におこる痛み
疝痛	17.4																		消化を促すこと。
呑酸	5.8																		腸の調子を整えること。
はき下し	40.6																		刺すような激しい腹痛。
腹部膨満感	69.6																		げっぷ。
水あたり	72.5																		吐いたり下したりすること。
胸つかえ	72.2																		膨らんで不快感を感じる。
もたれ	92.2																		飲み水が原因による下痢

目薬	理解度(%)	医学大辞典	看護辞典	日本薬大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
眼瞼炎	36.2	●				●		腸管内容物、ガス、水分 生水	まぶた	炎症。かゆみ。赤み。	まぶたの赤み、はれ。





皮膚用薬	理解度 (%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
あかぎれ	89.9	●	●		●			寒さなど	皮膚。特に手足	切れ目。	寒さによって皮膚がさけていたむもの。
乾皮症	35.4	●		●				皮脂および汗の分泌が減退し	皮膚。	乾燥	皮脂および汗の分泌が減って皮膚が乾燥した状態。
おむつかぶれ	93.7	●	●	●					おむつの当たる部位	かぶれ、ただれ	おむつの当たる部位のかぶれ、ただれ。
外陰部痒痒症	36.2	●							生殖器の外部分	かゆみ	生殖器の外部分のかゆみ。
かき傷	68.8				●						爪などでひっかいた傷
角化症	29							角質増殖あるいは蓄積をきたし	皮膚表皮	肉眼的に角質肥厚や鱗屑を主徴とする。たこ、いぼ、うおのめ。	皮膚の角質が増殖して硬くなったり、かさつきを伴う。たこ、いぼ、うおのめなど。
化膿症	65.8		●	●				化膿菌感染			細菌の感染による、黄色くじゅくじゅくしたうみ、炎症、はれ。
化膿性創傷	46.8							化膿菌感染	傷口	傷口が黄色くうみをもつこと。	傷口が黄色くうみをもつこと。
化膿性皮膚炎	65.2							化膿菌感染	皮膚	黄色の膿を伴う	じゅくじゅくした黄色いうみをもったしっしん・かぶれ。
化膿性皮膚疾患	36.7							化膿菌感染	皮膚	黄色の膿を伴う	じゅくじゅくした黄色いうみをもったしっしん・かぶれ。
貨幣状湿疹	11.7	●	●						皮膚。下腿や上肢の伸側、腰に好発する	皮膚	硬貨ぐらいの大きさの湿疹・できもの。
急性・慢性湿疹	58.4								皮膚		急に起こる。長引くしっしん・かぶれ。
くさ	11.4										できもの。きずあとにできるもの。かさ。
口唇き裂	49.3							男児に多い。先天的異常でもっともおおい。	上唇	切れ目。	唇に生じる切れ目。男児に多く、生まれつきの場合が多い。
口唇乾燥症	53.6								くちびる	乾燥する。	くちびるの乾燥。



肛門癢痒症	22.8							肛門	かゆい	こうもんのかゆみ。
固定蕁麻疹	8.9	●	●	●			皮膚	蕁麻疹様紅斑を生ずるが掻破を加えているうちに丘疹状になる	虫にさされたあとでかゆみが残りかゆみを伴う。	
さかむけ	71.4			●	●		爪ぎわの皮膚	逆さにむけること。ささくれ。	ささくれ。爪ぎわの皮膚が逆さにむけること。	
刺傷	89.9	●	●	●					とがったもので刺した傷	
酒さ	1.3	●	●	●		酒客に多い中年者	顔とくに鼻尖	発赤、発疹をきたす	顔とくに鼻が赤くほれたり、にきびができること。中年の人に多い	
擦過傷	49.4	●	●	●		皮膚の裏面に直接的に作用し	皮膚	表皮を剥離し真皮を露出した傷	表皮がはがれた、深い傷。	
さめ肌	80.5			●	●		皮膚		サメのようにさらさらした人の肌。	
秕糠疹	0	●		●			皮膚	秕糠様の微細な鱗屑、落屑を主徴	皮膚の表面がかさついたり、ぼろぼろ細かいほがれた状態。	
痔疾	60.8				●		肛門及びその近接部分	痔瘻・痔核・肛門裂傷・脱肛などを含	肛門の周りの病氣。	
湿疹	92.2	●	●	●	●		表皮	炎症。発赤・腫脹・灼熱感・痒みをともなう。	皮膚の表面のほれ・かゆみ・赤みなど炎症のこと。	
食餌性湿疹	15.6									
脂漏性湿疹	30.4	●	●				有髪頭部、耳介とその周囲、外耳道、顔面、腋窩、正中線部、臍窩、外陰部	しっしん	頭・顔・耳の周りなど、脂が多くできる部分にできるしっしん。	
脂漏性皮膚炎	20.3			●		●				頭・顔・耳の周りなど、脂が多くできる部分にできるしっしん。
神経性皮膚炎	68.1									ストレスによりおこる湿疹・皮膚炎。

尋常性癬瘡	6.3	●						思春期				脂腺性毛包が傾される。毛孔に一致した慢性炎症性変化を示すもの。	にきび。思春期によくでき、背中、胸にみられる。
蕁麻疹	40.5	●	●	●	●	●	●		真皮上層	浮腫、膨疹、発斑	多くは一過性で一日程度で消える。かゆみ・はれのあふるしっしん。		
癬	13	●	●	●	●	●	●		毛包	壊死性変化の強い化膿性炎症を生じたもの	毛穴や皮脂腺から細菌が入り毛根を取り囲む部分(毛包)にできるものができ		
接触性皮膚炎	47.8	●	●	●	●	●	●		皮膚	炎症	俗にかぶれといわれる。接触による刺激やアレルギーによって起こる。		
創傷	39.1	●	●	●	●	●	●			組織の損傷	きず。		
そこまめ	9.1		●	●	●	●	●		足の裏	まめ	足の裏にできるまめのような水ぶくれ。		
疔	2.9			●	●	●	●		皮膚の深部及び皮下結合組織中	激痛を感じ膿を生ずる	皮膚の深い所に細菌が入り込んで起こすはれ。強い痒みを感じ		
伝染性皮膚炎	63.8												
とびひ	67.5	●	●	●	●	●	●	小児	皮膚	浅在性皮膚感染症。じゅくじゅくした病変。	細菌による感染性の皮膚炎。じゅくじゅくしたうみをもち、小児によくできる。		
日光皮膚炎	57	●	●	●	●	●	●		皮膚	炎症	日やけ		
膿痂疹	6.3	●					●	小児	皮膚	浅在性皮膚感染症。じゅくじゅくした病変。	いわゆるとびひ。細菌による感染性の皮膚炎。じゅくじゅくしたうみをもち、小児によくできる。		

はたけ	55.8						小児			顔。ほおやあごの皮膚。	小指の爪大に白く、色素が抜けたようになる	ほおやあごの皮膚が白いはんてんのように白くなること。小児によくできる。
癩	7.6						高齢者や糖尿病の人	化膿菌	項(うなじ)・背・顔	項部(首の後ろの部分)	せつが集合したものの。うなじ・背・顔などによくできる。	せつが集合したものの。うなじ・背・顔などによくできる。
ビダール氏苔癬	5.2						中年女子	極いたり衣服の摩擦	項部(首の後ろの部分)	暗赤色の小丘疹が集簇し板状の局面を形成してくる	首の後ろの部分がかゆい。うみかいているうちに赤く板状にはれる。中年の女性に多い。	
面ちよう	30.4							黄色ブドウ球菌	口の周囲、鼻、前額部	発赤、硬結、痠痛が著明で毛包に一致した膿栓	毛穴や皮脂腺から細菌が入り毛根を取り囲む部分(毛包)にできる。とくに口の周り・鼻・額にできる。	
毛囊炎	5.1							黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌	毛包	炎症	毛根を取り囲む毛包が細菌により炎症を起こすこと。	
薬物性皮膚炎	58										薬物による湿疹・皮膚炎	薬物による湿疹・皮膚炎
皮膚潰瘍	35.4										皮膚に穴がでる	皮膚に穴がでる
皮膚掻痒症	27.8								皮膚	痒い	特別でものがないのに皮膚がかいくこと。	特別でものがないのに皮膚がかいくこと。
皮膚の炎症	86.1										皮膚のはれ・痛み。	皮膚のはれ・痛み。

歯科口腔用薬	理解度(%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
咽頭炎	71						ウイルスや細菌の感染	口峽、咽頭の粘膜およびこの部のリンパ組織	炎症	のどの粘膜のはれ・痛み。	
口のねばり	89.9									口の中がねばつくこと。	

歯垢の沈着	71.4									細菌とその代謝物	歯の表面	付着する。	歯の表面につく細菌がつかす。歯の表面の汚れ。
歯槽膿漏	79.2	●	●	●	●					歯石の刺激、細菌の侵入、咬合不正	歯の周囲組織	慢性の炎症。歯肉からの排泄、歯槽骨の吸収、歯の弛緩動揺。歯肉が赤くはれ、うみが出て血しやすい	歯のまわりの慢性の炎症。はぐきが赤くはれ、うみが出たりする。
歯肉炎	88.4	●									歯肉	炎症	はぐきはれ・痛み。
腫脹	15.6	●	●	●	●								はれ。
智歯周囲炎	13	●									智歯周囲組織	急性または慢性の炎症をいう	親しらずの周囲のはれ・痛み。
はぐきからのうみ	82.6												はぐきからのうみ
はぐきのむすやゆさ	58.2												はぐきがむすむすとかがゆいこと。
歯齦炎	29	●									歯肉	炎症	はぐきはれ・痛み。歯肉炎。
発赤	32.5	●	●	●	●					毛細血管の一時的な拡張と充血	皮膚粘膜	赤色の色調の変化	皮膚が赤くなること。
浮腫	42.9												歯が浮く感
扁桃腺炎	79.7										口蓋扁桃	炎症	のどの奥にある卵型のリンパ組織のはれ・痛み。

眠気防止薬	理解度 (%)	医学大辞典	看護辞典	日本臨床辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
驚風	2.9				●		小児			脳膜炎および脳膜炎様の症状	ひきつけ。
小児五疳	0						小児				
小児虫気	11.4						小児	回虫または消化不良などのため		体質が虚弱となり不眠・癩癩などを伴う病症	小児の体質が虚弱になった時におこる不眠や夜泣きのこと。
除去	72.5			●	●						取り除くこと。